



日本基督教団桐生教会 教会堂

織都の歴史に紐付いた荘厳な礼拝空間
大切に守り残された桐生最古の教会建築

樹徳高等学校の南側、かつて新川球場（現・新川公園）に突き当たることから「グラウンド通り」と称された道沿いに一際目立つ、白く高い三角屋根の建物が、桐生地域の教会建築としては最古となる、プロテスタントのキリスト教会、日本基督（キリスト）教団桐生教会の教会堂だ。

明治5年にプロテスタントで最初の日本人教会が横浜で設立され、桐生では6年後の明治11年に境野で設立。明治35年に本町6丁目へ移った後、教会設立50周年にあたる昭和3年に教会堂の改修が決まり、昭和恐慌下での困難を経て昭和5年、錦町に現在の教会堂が建設された。昭和22年のカスリーン台風や平成23年の東日本大震災で被害を受けながらも教会や信徒により修復を受け、長年大切に使用されてきた。

玄関部分を含む3連の尖頭アーチと、上部の三葉形アーチ窓と小さなバルコニーが目を引く。華美な装飾は抑え荘厳な礼拝空間としている会堂内は平屋建てながら高い天井に角度をつけた梁を配し開放感を生み出すなど、今に残る建築当時の優れたデザインが評価され、令和6年7月には国の文化審議会で教会堂を登録有形文化財とすることが答申された。現在地での教会堂建設にあたっては、「リボン織」を開発した堀祐織物工場を営んだ機業家で、当時の教会の長老であった堀祐平氏が土地を寄贈した経緯がある。桐生市体育協会初代会長も務め「堀マラソン」に名を残す堀氏は社員教育にキリスト教の博愛主義を取り入れ、現存する教会堂も従業員への学びの場となった。

桐生の繊維産業の歴史にも結び付き、由緒ある教会堂。信徒たちの祈りとともに、桐生の街の歩みを温かく見守り続ける。



【日本基督教団桐生教会 教会堂】

●住所／桐生市錦町1-3-52
●電話／0277-44-3703
●@uccjkiryu

「近代化遺産一斉公開2024」における一般公開
令和6年11月16日(土) 10時～16時